

From Kobe 2015. 7月

1. 7月2日は歳時記の「半夏生・はんげしょう」 梅雨の末期 大雨の警戒を忘れずに
2. 八戸市民が世界へ青森・八戸の縄文を発信する 市民映画「ライアの祈り」

1. 7月2日は歳時記の「半夏生・はんげしょう」

梅雨の末期 大雨の警戒を忘れずに

明石では 半夏生にはタコを食べようと盛んにPR

また、郷の山裾で この頃花をつけ、花の近くの葉 数枚が葉の表を白くする不思議な草花「半夏生・半化粧」

「半夏生」の言葉の由来 歳時記の言葉と花 どちらが先なのでしょうか
「半夏生」 歳時記では 毎年 夏至から数えて11日目頃を言う。

梅雨の末期で、多湿で不順な頃とされ、農家ではこの日までに田植えを済ませるといふ。地域によるが、この日にタコを食べる習慣があり、元々は田に植えた苗が、タコの足のようにしっかりと根付くようにとの願いを込めたもの。、タコの産地 明石では最近この風習を広めようと土用丑のウナギに倣って 半夏生にはタコを食べようとPRしている。

また、この頃 葉の表の一部が白く化粧する「半夏生・ハンゲショウ」と言う野草もある。

山口県美祿に居る時に教えてもらった梅雨明けまじかに咲く草花で、そのとき 花の近くの2,3枚の葉だけが白くなり、なんとも不思議な草花と。山裾のの道を歩いていると時折見かけることがあり、この時期をすぎると全体が緑の葉に戻る。また、梅雨末期には大雨にみまわれることがあり、「半夏生雨」の言葉もあると聞く。

歳時記に記された「半夏生」・そして半夏生の花は田植えを終える目安 気候の変わり目として、農作業の大切な日であり、また 我々にとっても 突然の大雨への注意をせねばと。 そんな 梅雨明け待ちのこの頃。梅雨明けが待ち遠しい。



2. 八戸市民が世界へ青森・八戸の縄文を発信する 市民映画「ライアの祈り」

北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を目指す
是川縄文遺跡 や 国宝合掌土偶 の出土地 青森八戸



映画「ライアの祈り」—それは、人生に臆病になっていたひとりの女性が、“人間本来の生き方”のエッセンスに満ちた縄文時代に触れて自身の幸せのカタチを見出し、八戸の街を舞台に一步踏み出していく姿を描く、優しさ溢れる感動作。

桃子は八戸の眼鏡店に勤務する明るく姉御肌のアラフォー女性。だが彼女の心の奥にはどうしても抜けない棘があった。実は彼女は、不幸な離婚を経験し、心に深い傷を負って、人生を前に進ませる勇気が持てずにいたのだ。

そんな彼女は、ある時、縄文時代の遺跡発掘に情熱を傾ける男性、クマゴロウと出会う。

それをきっかけに、遥かな昔、この場所で生きた命があったことに想いを馳せた彼女は悠久の時を経て自身へと繋がる絆

を体感するのだった。果たして、桃子が見つげ出す幸せのカタチとは？

八戸市 「ライアの祈り」のページより <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/27,82184,91,278.html>

縄文の時代は一万数千年　こんなに長く続いた時代は世界的にもほかになし。次に長いのは江戸時代の600年

この平和の原動力は何か・・・　人として今一番大事なことは何か・・・

その象徴として描かれる　八戸風張遺跡の国宝合掌土偶　ライアの祈り

北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を目指す八戸市民が世界へ縄文遺跡の素晴らしさを発信する映画。
主人公二人が訪ねる八戸の市街地や是川縄文遺跡・御所野縄文遺跡（岩手県二戸）そして　縄文遺跡の発掘作業の素晴らしい
映像と共に　二人の恋愛・心の交流を通じて、「平和　そして人として一番大事なもの」が描かれる。

言葉としては表現なされてはいませんが、和鉄の道で何度か取り上げてきた下記が発信され続けられた。

人間が幾たびとなく生き延びてきた原動力　「ヒューマン」「心優しき縄文」

東日本大震災を経験した八戸が素晴らしい北東北・八戸の風景や縄文の映像

そして、主人公を通じて語る縄文の平和への思い。それらがひしひしと伝わってくる。

かつて、岩手県民が作った映画　東北蝦夷の雄「アテルイ」に続く青森八戸市民の縄文への思いが映画につづられている。

主人公に何度も語らせる縄文の解説が多少説教ばくで耳につきましたが、それが主題だから仕方がないのかも・・・

全く悪人が登場しない心地良い映画でもある。

なお、この映画のタイトル「ライアの祈り」の「ライア」とは古いギリシャの竖琴で、縄文の豊かな生活の場であった森の中
を竖琴の輪郭のようにうねって水が流れ下る水場・木の実のさらし場をイメージしているという。

（映画の原作「ライアの祈り」の中では　小説の進行と同時並行で描かれる夢の中の縄文の少女の名前となっている）

何度か和鉄の道でも紹介した日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の映画。

今憲法・集団自衛権問題など「平和をどう考え、実践すべきか」が一人一人に問われている今、

「持続的な平和な社会の原動力は何か　人として今一番大事なことは何か　」を考える一助になれば・・・と。

また、一足先に明治の産業遺産として製鉄関連の遺跡群が世界遺産に登録されるようですが、

ぜひともこの北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を願っています。

次ページに本映画のストーリーを映画の公式ページから転記させていただきました。

機会があれば、ぜひ映画を。また原作の小説「ライアの祈り」も・・・

2015. 6. 23.　映画　ライアの祈りを観賞して

by Mutsu Nakanishi



≪「関連の和鉄の道・縄文」 by Mutsu Nakanishi≫

1. 【鉄の雑記帳】 日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の知恵
「利他的精神」について　朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・　2014.6.1.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/14iron05.pdf>
2. 「ヒューマン　なぜヒトは人間になれたのか」視聴・購読メモ
<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/iron8/1204human.pdf>
3. 青森・八戸　縄文の郷「是川」　縄文文化を代表する是川遺跡・風張遺跡を訪ねる　2008.10.30.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/8iron13.pdf>
4. ストーンサークルを囲む土屋根の竪穴式住居群　御所野縄文遺跡探訪　2008.10.30.
縄文の森に600を越える土屋根の竪穴式住居群　縄文の村がそっくりそのまま残っていた
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironjyomon.htm>
5. 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜を　普代から久慈・八戸へ　砂鉄浜の　有家海岸　&　種差海岸
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/14iron11.pdf>

◎ 和鉄の道 Iron Road「縄文」掲載リスト

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironjyomon.htm>

映画「ライアの祈り」 ストーリー

Story 永久のロマンを旅して見つけたものは、《幸せ》でした。

桃子(鈴木杏樹)は、明るく姉御肌のアラフォー女性。メガネ販売店の八戸店で店長を務めている。それまで住んでいた実家のある弘前から転勤を機に八戸に越してきたばかりだが、既に店の後輩の桜達から頼られ慕われる存在となっていた。だが彼女の心の奥には、どうしても抜けない棘があった。実は彼女は、不幸な離婚を経験し、心に深い傷を負って、人生を前に進ませる勇気が持てずにいたのだ。

そんなある日、桃子は、若い桜(武田梨奈)に誘い出され、しぶしぶ街コン風地酒パーティに参加する。「人数合わせ要員でバツイチ」とおどけて名乗った桃子の前に遅れて現れたのは、40代後半の無精髷の男、佐久間五朗(宇梶剛士)。あだ名はクマゴロウ。桃子は、彼を見たとき、遠い記憶が一瞬蘇ったような感じに襲われ、驚き戸惑う。彼女が感じたのは、子供の頃から時々見ていた不思議な夢の中の、太古の森を通る風の感触だったのだ。

クマゴロウは、遺跡発掘一筋の考古学研究者だった。一万年以上の間、平和に続いたという縄文時代に対する彼の畏敬の念は深く、語り出したら止まらない。その夜、いつになく飲み過ぎて、無骨で不器用なクマゴロウにからんでしまった桃子は、翌日、じわじわと記憶が戻ると、自身の失態に頭を抱えた。だがクマゴロウは、酔った桃子の支離滅裂な言葉——「八戸が弘前よりいいとこだって言うなら、私を納得させてよ！」——を律儀に受け止め、数日後、本当に八戸の街を案内してくれるのだった。

陸奥湊駅前朝市や蕪島神社など八戸の様々な場所を巡る二人。地元の人達に愛されているクマゴロウは、どこに行っても声を掛けられている。だが彼が縄文時代の話をはじめると、桃子の脳裏にまたもや深い森のイメージが浮かぶのだった。不思議そうなクマゴロウに、桃子は子供の頃から見ている太古の森の夢のことや、クマゴロウと出会った瞬間に感じた風の感触を語る。すると彼は、縄文時代の夢ではないかと羨ましがり、自身の職場である是川縄文館に桃子を連れて行ってくれた。クマゴロウが桃子に見せたのは、八戸から出土した国宝の合掌土偶だった。

「縄文時代の人達って、生きるために必要なもの全部を持っていたんじゃないかしら」
何気なくそう言った桃子に、まさにその通りとばかり、クマゴロウは嬉しい驚きを見せた。そして縄文時代の代弁者として、何か表現してみることを勧めるのだった。

数日後、クマゴロウに教えてもらいながら、是川遺跡で発掘作業を体験した桃子は、土器の欠片を発見し、同じこの場所で生きた人々の命を感じ、さらには、その土地と繋がった不思議な感覚に捕らわれるのだった。

桃子は、夢の風景をイラストに描き始めた。縄文時代の衣装をまとい、弓を手にした少女の姿や風が抜ける深い森……。何枚か描き上がったものをクマゴロウに見せると、彼は、感動で涙ぐむ。彼がつけてくれた少女の名は、ライア——古代ギリシャの豎琴。

だが“縄文時代”が繋いだ心豊かな時間をクマゴロウと共有ながらも、桃子は、本気で恋することに臆病なままだった。何かと桃子を慕ってくる桜にだけは、誰にも言えなかった離婚の原因と心の痛みを打ち明けていた。それは、クマゴロウとの未来に踏み出すことをためらわせている原因でもあった。

そんなある日、クマゴロウは、縄文晩期の日本と交流があった可能性のあるベトナムへと調査に飛ぶ。手首には、桃子が編んで「お守り」としてつけてくれたミサンガをつけて。ベトナムの島に赴いたクマゴロウは、皆が共に笑って暮らせることが願いだという部族長の姿に、縄文時代のシンプルで心豊かな生き方に通じるものを感じ、感動する。彼は、部族長に問う。「人間として一番大切なことは何ですか」

だがその答えは、皮肉にも桃子の心の傷を思い出させるものになってしまう……。

果たして桃子は、クマゴロウとともに、太古からの風の中に幸せを見つけ出し、前へと踏み出すことができるのだろうか。